

# 道路空間緑化基準

---



令和7年4月

名古屋市緑政土木局

# 目次

<b>第1章 総 則</b>	
1-1 目 的.....	1
1-2 基本方針.....	1
1-3 適用の範囲.....	1
1-4 用語の定義.....	1
<b>第2章 歩 道 等 の 植 栽</b>	
2-1 植栽の効果.....	3
2-2 植栽形式.....	3
2-3 植樹帯形式の選定基準.....	3
2-4 植樹帯の規格・構造.....	3
2-5 植ます形式の選定基準.....	4
2-6 植ますの規格・構造.....	5
2-7 植樹帯及び植ますの設置位置.....	6
2-8 植樹帯及び植ますの植栽基準.....	7
<b>第3章 中 央 分 離 帯 の 植 栽</b>	
3-1 植栽の効果.....	8
3-2 選定基準.....	8
3-3 植栽基準.....	8
<b>第4章 コミュニティ道路の植栽</b>	
4-1 植栽の効果.....	9
4-2 植栽基準.....	9
<b>第5章 街 園 の 植 栽</b>	
5-1 植栽の効果.....	10
5-2 植栽基準.....	10
<b>第6章 高 架 下 緑 地 帯 の 植 栽</b>	
6-1 植栽の効果.....	11
6-2 植栽基準.....	11
<b>第7章 特 殊 空 間 緑 化</b>	
7-1 植栽の効果.....	12
7-2 植栽基準.....	12
<b>第8章 道 路 空 間 緑 化 の 設 計 ・ 施 工</b>	
8-1 樹種の選定.....	13
8-2 植栽土壌.....	13
8-3 施 工.....	14
8-4 住民参加.....	14
<b>第9章 維 持 管 理</b>	
9-1 維持管理の基本.....	15
9-2 街路樹、植ますなどの移設、復旧.....	15
9-3 並木（高木）の安全対策.....	15
9-4 愛護精神の高揚.....	15

# 道路空間緑化基準

## 【はじめに】

名古屋市では、令和3年3月に「名古屋市みどりの基本計画 2030」を公表し、市民・事業者・行政のパートナーシップによって「みどりと人がきらめく 自然共生都市なごや」を目指して施策・事業の実施に取り組んでいます。

このなかで道路空間の緑化に関しては、市域面積の約18%を占める道路空間の役割を十分に認識しつつ、都市計画道路の整備とともに積極的に推進してきておりますが、令和2年の緑被率調査では、道路空間における緑被の割合は5.8%にとどまっています。

道路空間の緑化は、緑のネットワークを形成し緑の都市軸としての機能を発揮することで都市環境の改善や生物多様性の確保に重要な役割を担っているほか、美しく風格のある街並みの形成や季節感の醸成、交通安全など多様な機能をあわせもっており都市にはなくてはならないものです。

また、「自然共生都市」の実現に向け道路空間の緑化が果たす役割も重視されています。とりわけ近年、都心部で顕在化しているヒートアイランド現象の緩和や、大気中の汚染物質等の吸収・吸着、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収・固定、昆虫や鳥など多様な生物の生息空間の提供、災害発生時における火災延焼遮断機能の発揮、グリーンインフラとしての役割など実に多くの機能を有することが実証されています。

道路空間緑化基準は、昭和56年5月に制定された「道路緑化基準」を、平成15年4月、平成25年4月に大幅に加筆修正して制定したものです。今回の改定は、都市緑地法の一部改正を踏まえ国によって令和6年12月に策定された「都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針（緑の基本方針）」で掲げられた緑化の推進目標に資するため、道路構造令で規定される歩道の幅員に合わせ残存有効幅員の考え方を修正することで街路樹の緑を確保するとともに、通学路における通行の安全確保のため、植栽帯等の設置位置等を修正するものです。

# 第1章 総 則

## 1-1 目 的

この基準は、道路空間緑化を推進するにあたっての指針及び一般的な基準を定めることを目的とする。

## 1-2 基本方針

道路空間緑化は、道路の交通機能及び構造との調和を図りながら、道路景観の向上、季節感の演出、ヒートアイランド現象の緩和、緑陰の提供のほか、道路交通の安全性と通行の快適性を高めるとともに、沿道及び都市全体の自然環境の保全と創出に資するように推進する。

## 1-3 適用の範囲

この基準は、名古屋市が管理する、または管理することとなる道路法上の道路において緑化を図る場合に適用する。

## 1-4 用語の定義

用語の定義は、次のとおりとする。

### (1) 道路空間緑化

道路の機能の向上と環境保全を目的として、道路空間内に樹木、地被類などを植栽または保存し、維持管理すること。

### (2) 街路樹

道路空間内に植栽または保存される樹木

### (3) 並 木 (高木)

道路空間内に列状に植栽される高木

### (4) 高 木

樹高3メートル以上の樹木

### (5) 中 木

樹高0.6メートル以上3メートル未満の樹木

### (6) 低 木

樹高0.6メートル未満の樹木

### (7) 地被類

地表面を低く覆う植物(芝、リュウノヒゲなど)または、つる性植物(カラライナジャスミン、ナツヅタなど)

### (8) 草 花

花の咲く草本類(パンジー、サルビアなど)

### (9) 植ます

主として高木を単独で植栽するために設けられる道路の施設

### (10) 植樹帯

街路樹、地被類などを植栽するために設けられる帯状の道路の施設

- (11) 植樹帯形式  
道路空間内に植樹帯を設けて街路樹、地被類などを植栽する緑化形式
- (12) 植ます形式  
道路空間内に植ますを設けて並木（高木）を植栽する緑化形式
- (13) 植栽形式  
植樹帯形式及び植ます形式をいう
- (14) 歩道等  
歩道及び自転車歩行者道、自転車道をいう
- (15) 中央分離帯  
車線を往復の方向に分離するために設けられる帯状の道路の施設
- (16) 高架下緑地帯  
道路や軌道の高架下に設けられる帯状の緑化された施設
- (17) 街園（交通島を含む。）  
道路空間内にあって、一般交通の用に供しないで広場的、公園的機能を有し、地域にゆとりあるスペースを提供する施設または車両の安全円滑な通行及び歩行者の横断の安全を確保するために、交差点、車道の分岐点に設けられる島状の施設
- (18) 垂直緑化  
つる性植物を擁壁などに直接、あるいは網状または格子の柵に沿うよう植栽する緑化形式
- (19) コミュニティ道路  
交通安全対策の一環として、狭窄部を設けるなど自動車の通過交通の量や速度を抑制し、併せて景観にも配慮した道路。

## 第2章 歩道等の植栽

### 2-1 植栽の効果

歩道等の植栽には、道路景観の向上、季節感の演出、沿道の環境保全のほか、歩車道分離機能の強化による歩行者の安全確保、緑陰の提供、しゃへい、視線誘導とともに、防風、防じん、防煙、防火、騒音の緩和、大気の浄化、ヒートアイランド現象の緩和、生物の生息場所の確保などの効果がある。植栽にあたっては、これらの効果が発揮されるように配慮しなければならない。

### 2-2 植栽形式

歩道等の植栽形式は、歩道等の幅員、道路の構造、交通の状況、沿道の土地利用状況などを勘案した上で、表-1に基づき原則として植樹帯形式を採用する。  
(図-1、図-3 参照)

表-1 植栽形式

歩道等の幅員	種別	交通状況等	残存有効幅員	植栽形式
4.5m以上	自転車歩行者道	歩行者の交通量が多い	4.0m以上	植樹帯
	歩道	歩行者の交通量が多い	3.5m以上	植樹帯
	歩道・自転車歩行者道	その他の道路	3.0m以上	植樹帯
4.5m未満	自転車歩行者道	その他の道路	3.0m以上	植ます
	歩道	その他の道路	2.0m以上	植ます

### 2-3 植樹帯形式の選定基準

植樹帯形式を採用する歩道等は、次のとおりとする。

- (1) 第4種第1級第及び第2級の道路において、幅員が4.5メートル以上の歩道等には、原則として植樹帯形式を採用する。

ただし、歩道に自転車道を併設する場合にあつては、関係機関の協議による。

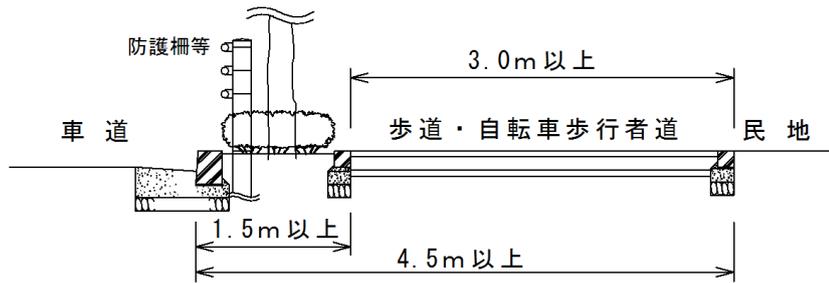
- (2) 植栽形式を変えようとする場合は、関係機関の協議による。

### 2-4 植樹帯の規格・構造

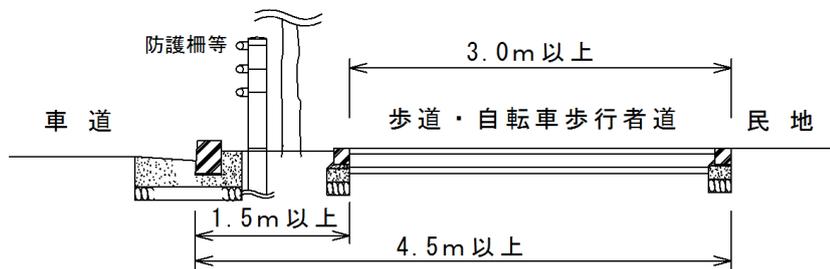
- (1) 植樹帯の幅員は、幅員4.5メートル以上の歩道等において、1.5メートル以上を標準とする。

(注) 植樹帯幅員とは、街渠ブロックから植樹帯ブロックまでの幅員

## イ. マウント式



## ロ. フラット式・セミフラット式



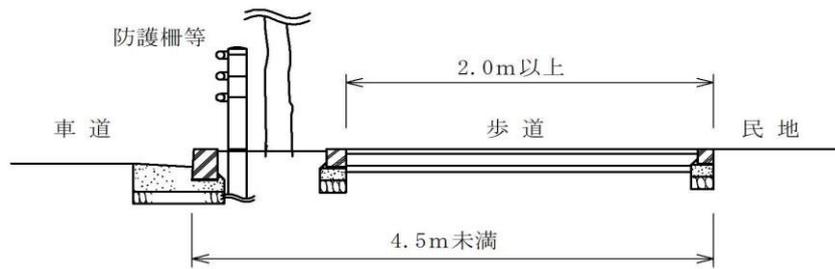
- (2) 新設時の植樹帯長さは、最短を3.5メートルとし可能な限り長くする。ただし、長さが3.5メートル未満になり植樹帯を設けることができない場合は、植ますを設置することができる。
- (3) ごみの収集、荷物の積み卸しなど沿道の利用上必要がある場合は、約20メートルに1か所、1.5メートルを標準として開口部を設けることができる。  
(図一1参照)
- (4) 植樹帯は、周囲をコンクリートブロック、レンガなどで築造し、歩道等の路面排水を妨げ、または植樹帯内の土砂が車道に流出しない構造とする。
- (5) バス停留所、地下鉄の出入口付近などで、歩行者、自転車の交通量の多い場所については、街路樹、地被類などを保護するためにパイプ柵などを設置することができる。

### 2-5 植ます形式の選定基準

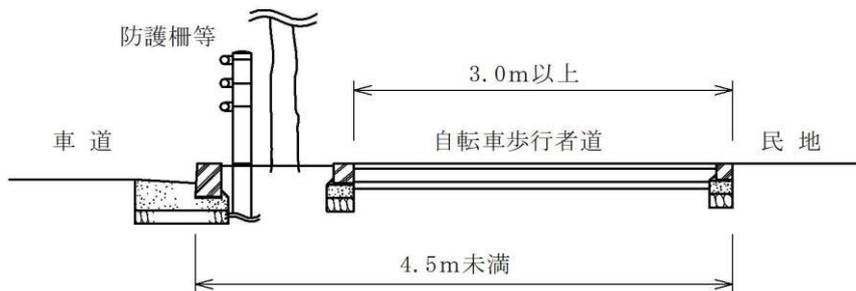
植ます形式を採用する歩道等は、次のとおりとする。

- (1) 第4種第1級及び第2級の道路において、幅員が3.2メートル以上4.5メートル未満の歩道及び幅員が4.2メートル以上4.5メートル未満の自転車歩行者道には、原則として植ます形式を採用する。

## イ. 歩道

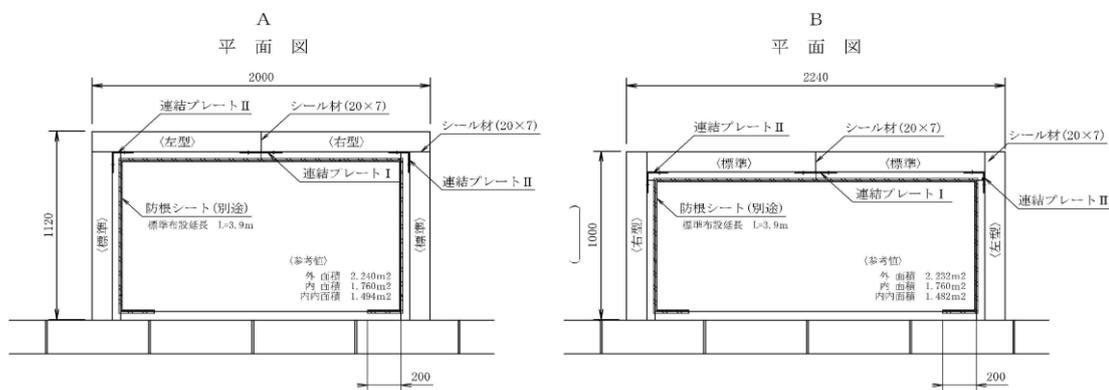


## ロ. 自転車歩行者道



### 2-6 植ますの規格・構造

(1) 植ますの平面形状は、次の図を標準とする。



(2) 植ますは、周囲をコンクリートブロック、レンガなどで築造し、歩道の路面と同一の高さを原則とする。

(3) 歩道等の有効幅員を確保するために、踏固防止板（鋳鉄製など）等を設置することはできない。

ただし、交通状況（自転車・歩行者の通行量）、沿道状況、特段の事由を考慮し、やむを得ないと判断した場合はこの限りでない。

## 2-7 植樹帯及び植ますの設置位置

(1) 植樹帯及び植ますの設置位置は、歩道等の車道寄りを原則とする。なお、歩道等の幅員、交通の状況、沿道の状況などによっては、歩道等の中央部分にこれらを設置することができる。

ただし、歩道等利用者（歩行者、自転車など）の通行の支障とならない位置としなければならない。

(2) 次に掲げる歩道等の部分には、植樹帯を設置しない。

- ①交差点内の歩道等の縁石の巻込み端部から3メートル以内の部分（歩道等を有する幅員15メートル以上の道路が相互に交差する交差点内にある場合は、低木、地被類、草花などを植栽するための植樹帯を設置することができる。）
- ②横断歩道、自転車横断帯の前後から3メートル、乗り入れ施設の両端から1.5メートル以内の部分
- ③横断歩道橋（地下道・エレベーター棟を含む）、地下鉄または地下街の昇降口から3メートル以内の部分
- ④バス停留所標識設置位置から車両進行方向に向けて先1メートル、手前9メートル以内の部分
- ⑤電話ボックス、公衆便所の出入口、郵便ポスト、マンホール、消火栓などの付近（図-1 参照）
- ⑥片側2車線以上の道路における通学路である横断歩道上流15メートル以内の部分（図-2 参照）
- ⑦その他道路機能上または構造上支障となる部分

(3) 植樹帯を設置する場合は、ます類、街路灯または道路標識の基礎、地上機器、電柱などを植樹帯内に取り込むことができる。

ただし、取り込む施設の設置位置は高木などの植栽位置を考慮しなければならない。（図-1 参照）

また、当該施設を管理する上で必要な範囲や、低木が植栽不可能な余地は舗装するものとする。

これらの施設を植樹帯内に取り込むことが不相当であるときは、それぞれの物件の管理者と協議してこれを移設または撤去させることができる。

(4) 次に掲げる歩道等の部分には、植ますを設置しない。

- ①交差点内の歩道等縁石の巻込み端部から3メートル以内の部分（大規模な交差点内で交通の支障とならないような場所については、この限りでない。）
- ②横断歩道、自転車横断帯の前後から3メートル、乗り入れ施設の両端から1.5メートル以内の部分
- ③横断歩道橋（地下道・エレベーター棟を含む）、地下鉄または地下街の昇降口から3メートル以内の部分
- ④バス停留所標識設置位置から車両進行方向に向けて先1メートル、手前9メートル以内の部分
- ⑤信号、道路標識、街路灯、ます類、電柱、電話ボックス、公衆便所の出入口、郵便ポスト、マンホール、消火栓などの付近（図-3 参照）

- ⑥片側 2 車線以上の道路における通学路である横断歩道上流 15メートル以内の部分（図－4 参照）
  - ⑦その他道路機能上または構造上支障となる部分
- (5) 植ますを設置する場合は、原則として、ます類、マンホール、占用物件などを植ます内に取り込まない。

## 2-8 植樹帯及び植ますの植栽基準

- (1) 並木（高木）の植栽間隔は、10メートルを標準とする。  
ただし、自然樹形を生かし樹冠が大きくとれる場所での植栽間隔は、12メートルを標準とし、樹種・路線状況に応じて最適な間隔に広げることができる。
- (2) 同一路線における並木（高木）の樹種の変更は、主要交差点、橋梁、鉄道などで区切られる場合とする。
- (3) 植樹帯は、並木（高木）をとり込んだ低木による連続植栽を標準とする。なお、植樹帯の幅員、沿道の状況などによっては、地被類などによる植栽を併用することができる。
- (4) 交差点、横断歩道、自転車横断帯、乗り入れ施設などの付近では、見通しを確保するように植栽しなければならない。
- (5) 次に掲げる植樹帯の部分には、高木を植栽しない。
- ①植樹帯端部から1メートル以内の部分
  - ②信号柱の設置位置から5メートル、街路灯の設置位置から3メートル以内の部分
  - ③横断歩道橋（地下道・エレベーター棟を含む）、地下鉄または地下街の昇降口から3メートル以内の部分
  - ④電柱、電柱支線・アンカー、道路標識から3メートル以内の部分
  - ⑤その他道路機能上または構造上支障となる部分  
（図－1・図－3 参照）
  - ⑥片側 2 車線以上の道路における通学路である横断歩道上流 15メートル以内の部分（図－2・図－4 参照）
- (6) 広幅員の交差点内で高木による緑陰が必要と認められる箇所においては、歩道等利用者の安全を確保することや、車両からの視距の確保をするとともに道路交通の支障とならない範囲で植ますを設置して高木の植栽をすることができる。  
ただし、設置位置などについては交通管理者（所轄警察署など）と協議しなければならない。（図－5 参照）
- (7) 公園等隣接で緑がある箇所については低木のみ植栽とすることができる。

## 第3章 中央分離帯の植栽

### 3-1 植栽の効果

中央分離帯の植栽には、道路景観の向上のほか、対向車線の分離を明確化することによる自動車通行の円滑化、視線誘導、しゃ光、横断防止など交通安全上の効果がある。植栽にあたっては、これらの効果が発揮されるように配慮しなければならない。

### 3-2 選定基準

幅員が1.5メートル以上の中央分離帯には、原則として植栽する。

### 3-3 植栽基準

中央分離帯の植栽は幅員別に構成し、表-2を標準とする。(図-6参照)

- (1) 中央分離帯は、低木、地被類などによる植栽を標準とする。  
なお、幅員が3.0メートル以上の中央分離帯には、高木または中木を併用することができる。この場合、信号機、道路標識などの見通しを確保しなければならない。
- (2) 中央分離帯の開口部において、中央分離帯の先端及び横断歩道、自転車横断帯の端部から5メートル以内は視距を確保するため植樹帯を設けない。
- (3) 中央分離帯の先端及び横断歩道、自転車横断帯の端部、開口部付近で道路が屈曲しているか所においては、視距を確保するように植栽しなければならない。

表-2 中央分離帯の植栽基準

分離帯幅員	種 別					
	高 木	中 木	生 垣	低 木	地 被	草 花
1.5m以上 3.0m未満	×	×	×	○	○	×
3.0m以上	△	△	×	○	○	×
備 考				(注2)	(注2)	

(注1) ○：樹種選定して適用

(注2) 先端部から5メートル以内は植栽しない

## 第4章 コミュニティ道路の植栽

### 4-1 植栽の効果

コミュニティ道路の植栽には、自動車交通量や通行速度を抑制するとともに、道路景観に配慮し、安全性・快適性を向上させる効果がある。

植栽にあたっては、これらの効果が発揮されるように配慮しなければならない。

### 4-2 植栽基準

コミュニティ道路は低木による植栽を標準とする。

ただし、街路樹愛護精神の高揚が認められる場合など、学区の要望を踏まえた上で、沿道の状況等を勘案し、高木・地被等を植栽することができる。

なお、高木を植栽する場合、信号機、道路標識などの見通しを確保しなければならない。

## 第5章 街 園 の 植 栽

### 5-1 植栽の効果

街園の植栽には、道路景観の向上、沿道の環境保全のほか、自動車通行の円滑化、視線誘導、ランドマークなどの効果がある。植栽にあたっては、これらの効果が発揮されるように配慮しなければならない。

### 5-2 植栽基準

街園は、道路の交通機能と景観との調和を図り、規模や形状に応じた植栽とする。なお、交通島は、視距を確保するために低木、地被類による植栽を標準とする。

## 第6章 高架下緑地帯の植栽

### 6-1 植栽の効果

高架下の植栽には、道路景観の向上のほか、車線の分離を明確化することによる自動車通行の円滑化、視線誘導、しゃ光、横断防止など交通安全上の効果がある。また、緑視率の向上、大気の浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果もある。植栽にあたっては、これらの効果が発揮されるように配慮しなければならない。

### 6-2 植栽基準

- (1) 高架下緑地帯は、中木・低木・地被類などによる植栽を標準とする。
- (2) 高架下緑地帯は、高架構造や周辺環境に応じた植栽とし下記の点に留意する。

#### ①日照時間

高架本体、上空構造物、橋脚などの周辺構造物により変化するので十分な調査を行い、日照に応じた植栽とすること

#### ②散水設備

雨水が高架本体で遮断されている場所がほとんどであるため、散水設備（点滴かん水ホースなど）を設置するなど、植樹帯にまんべんなくかん水できるように配慮すること

#### ③植栽土壌

光・水環境の厳しい高架下においては、植物の良好な生育を確保するため、土壌の改良や良質な客土を確保すること

#### ④樹種選定

高架下は暗いイメージとなるので、葉色の明るい樹種などを選定すること。

（表-5、表-6、表-7 参照）

## 第7章 特殊空間緑化

### 7-1 植栽の効果

道路空間におけるコンクリート壁面や石積などを利用して緑化することや、人工地盤（橋梁・デッキの上面など）の緑化は、緑化空間の拡大、都市景観の向上のほか、ヒートアイランド現象の緩和、緑被率の向上、大気の浄化などの効果がある。植栽にあたっては、これらの効果が発揮されるよう配慮しなければならないが、できる限り維持管理費用がかからない工夫が必要である。

### 7-2 植栽基準

- (1) コンクリート壁面や石積などの緑化は、地被類（つる性植物）による植栽を標準とする。なお、つる性植物の選定においては樹種特性に留意して植栽しなければならない。

（表-8、表-9 参照）

また、壁面に自らはい上がることのできない巻ひげや巻き蔓で登る種類については、躯体の維持・管理を考慮の上、適切な形状・範囲に補助資材（メッシュ状の金網など）を用いる。

- (2) 人工地盤上の緑化は人工地盤の構造、周辺環境に応じた植栽とし下記の点に留意する。

#### ①植栽土壌

人工地盤上における土壌については、樹木の特性に応じた土壌厚、養分の確保や人工地盤の耐荷重などを考慮して樹木の生育に適した植栽土壌の確保に努めること

#### ②排水

過剰な水分を排水するため排水層を設け、樹木の生育の妨げにならないよう努めること

#### ③フィルター

植栽土壌が排水層へ移行することを防ぐためフィルター層を設けること  
（目詰まりを生じにくく、かつ水が浸透しやすく停滞しないもの）

#### ④給水

土壌の厚さが限られている場所については、樹木の生育に弊害があるため必要に応じて散水設備を設置すること

#### ⑤防根・防水

植物の根が躯体に侵入するのを防止したり、構造物本体への漏水を防ぐための措置をすること

## 第8章 道路空間緑化の設計・施工

### 8-1 樹種の選定

(1) 道路空間緑化に用いる樹種については、それぞれの特性を考慮の上、植栽地の環境条件に適合した樹種を選定する。

(表-4、表-5、表-6 参照)

(2) 樹種の選定にあたっては、次の事項を満たすように留意しなければならない。

①並木(高木)は、原則として落葉樹を使用すること。(中央分離帯においては、常緑樹を採用することができる。また、歩道等の幅員、沿道の状況などによっては歩道も同様とする。)

②低木は常緑樹を主体とすること

③樹姿が美しく、病虫害・日照りに強い樹種であること

④活着しやすく、生長が良好な樹種であること

⑤土壌、大気、気象などの環境条件に適した樹種であること

⑥維持管理の容易な樹種であること

⑦同一樹種、同一規格のものが一定数量入手可能であること

⑧地域の特質を考慮し、沿道条件や地下埋設物などの諸条件に適合した樹種であること

⑨倒木や落枝等の事故リスクの高い樹種は避けること

### 8-2 植栽土壌

(1) 植栽地の植栽土壌については、樹木などの生育に適する土壌を確保するように努め、不適当な場合は客土を行う。

また、表-3を参考値として、植栽する樹木などの種類、大きさなどを考慮しつつ、客土による改良や排水性、保水性の確保などを検討する。客土の量は、植栽する樹木の種類、大きさなどを考慮して決定しなければならない。

表-3 有効土層の厚さ(参考値)

	目標樹高	有効土層厚	上層厚 (良土層)	下層厚
芝 地被	---	20cm以上	20cm以上	(10cm以上)
低木 中木	3m未満	50cm以上	30cm以上	20cm以上
高木	7m未満	60cm以上	40cm以上	20cm以上
	7m以上 12m未満	80cm以上	60cm以上	20cm以上
	12m以上	100cm以上	60cm以上	40cm以上

(注1) 原則、有効土層厚は根鉢高以上とする。

(注2) ( )内は、樹種・植栽場所の条件によって、確保する必要がある場合

に適用する。

(2) 将来的な根上りを防止するため、根上りしやすい樹種に対しては、防根シートを施工すること。(表-4、図-7参照)

また、タイル・自然石舗装など特に景観に配慮した歩道等では、根上りしない植栽基盤改良を行うこと。

### 8-3 施 工

植栽の施工にあたっては、品質管理、工程管理、安全管理などに細心の注意を払うとともに、樹種に応じた植栽の適期に行うよう努める。

なお、やむを得ず、不適期に植栽する場合は、かん水や樹木の養生を十分行わなければならない。

### 8-4 住民参加

住民との協働による取り組みを推進するため、樹種選定などは計画段階から住民が参画できる環境づくりに努める。

できるだけ工事の計画段階から、沿道の住民・企業の要望を聞き、道路の連続性や道路交通の安全性を考慮した上で、特段の支障がないと判断され、かつ街路樹に対する愛護精神の高揚が確認され、協定の締結など持続性のある維持管理に期待できる場合は、最大限、住民要望を受け入れるものとする。

## 第9章 維 持 管 理

### 9-1 維持管理の基本

街路樹、地被類、草花など道路空間の緑の維持管理にあたっては、次の事項に留意する。

- (1) 快適な道路空間環境を保全し、豊かな緑が確保できるように保護育成する。
- (2) 道路交通の安全を確保するため、巡視・点検・診断を実施する。
- (3) 通行者及び沿道住民に対し、危険や不快感を与えないように努める。
- (4) 維持管理で発生したゴミなどは適切に処理し、再資源化が可能なものは排出削減と環境保全の観点から資源のリサイクルに努める。
- (5) その他、維持管理に関する事項については、「街路樹管理マニュアル」（平成4年施行（平成12年改定））を遵守する。

### 9-2 街路樹、植ますなどの移設、復旧

- (1) 道路管理者以外が行う工事によって街路樹、植ますなどの移設または復旧の必要が生じた場合の費用は、原因者の負担とする。
- (2) 前記の工事が完了し、街路樹、地被類などを復旧する場合は、原状に回復することを原則とする。ただし、原状に回復することが不適當であり、かつ、道路管理者がやむを得ないと認めるときはこの限りでない。
- (3) 道路工事及び占用工事等で支障となった並木（高木）の取り扱いについては、「承認工事に伴う街路樹の取扱い要領（平成30年4月）」に基づいて行う。

### 9-3 並木（高木）の安全対策

並木（高木）を安全に維持管理するために、「樹木診断マニュアル（令和6年4月）」に基づいて適切な処置をする。

また、高木などの根上りによる道路構造物の破損、根茎の民地への進入、歩行者・自転車の通行障害などを防止するため、防根シート敷設や、植ますなどの修繕、植ます・植樹帯の拡幅、根切りなどの適切な処置をしなければならない。

### 9-4 愛護精神の高揚

道路空間緑化の推進にあたっては、地域住民の道路空間の緑に対する愛護精神の高揚を図るとともに、地域住民による積極的な愛護協力体制の育成を図るよう努める。

#### 附 則

1. この基準は平成15年4月1日以降に実施する新設及び改築の道路空間緑化に適用する。
2. 道路緑化基準（昭和56年5月1日制定）は廃止する。

## 附 則

1. この基準は、平成25年4月1日以降に実施する新設及び改築の道路空間緑化に適用する。
2. 平成25年4月1日、現に新設または改築の工事中の道路については、改正後の規定に適合しない部分がある場合においては、当該部分に対しては、当該規定は適用しない。この場合において、当該規定に相当する改正前の規定があるときは、当該部分に関しては、なお従前の例による。
3. 平成25年4月1日、すでに協議・調整が完了している計画については、関係機関のいずれかから植栽に関する発議があった場合は再協議を行うものとし、発議がない場合は前項の規定による。

## 附 則

1. この基準は、令和7年4月1日以降に実施する新設及び改築の道路空間緑化に適用する。
2. 令和7年4月1日時点で、現に新設または改築の工事中の道路については改正後の規定に適合しない部分がある場合においては、当該部分に対しては、当該規定は適用しない。この場合において、当該規定に相当する改正前の規定があるときは、当該部分に関しては、なお従前の例による。
3. 令和7年4月1日時点で、すでに協議・調整が完了している計画について関係機関のいずれかから植栽に関する発議があった場合は再協議を行うものとし、発議がない場合は前項の規定による。

表一４ 高木樹種選定一覧表

- ・生育生育期間 50 年程度生育するものとして想定したもの。
- ・剪定は通常の管理を基本とする。管理方法により剪定頻度は変動がある。例えば、ある程度樹種特性を捉えた剪定作業を行うこと、など。
- ・生育環境なども同様、ある程度は樹種特性を考えた植栽地に植えられたものとして選定する。
- ・在来種については、名古屋市環境局「なごやのまちなか生物多様性緑化ガイドライン」による。
- ・歩道幅員：狭幅員4m未満、広幅員4m以上かつ車道2車線以上
- ・樹冠の大きさ：大10m 以上、中7m 程度

(1) 針葉樹(並木)

No	樹種名	狭幅員 おすすめ 樹種	広幅員 おすすめ 樹種	街路樹 適正	防根 シート	樹冠の 大きさ	在来種	コメント
1	アカマツ	×	△	×		大	○	不定芽が出ない、剪定管理は困難の部類。排気ガスで気孔が塞がり、樹勢が衰える。強剪定に耐えない。枝の途中切りはできないので、街路樹としては、枝抜き整形剪定とする。日本庭園等特殊な設定に限定して採用すること。
2	イチョウ	×	○	○	○	大		雌雄異株で結実すると実（ギンナン）が臭う。公園樹や街路樹として植栽する場合は、雄木の方が好ましい。強風では枝折れが多い。剪定後の芽吹きは堅調。都市環境に適応力大。コンパクトに仕立てることもできる。
3	イヌマキ	○	○	○		中	○	刈込に強く生垣等にも利用される。公園樹向き。
4	クロマツ	△	△	△		大	○	樹形の乱れを修正しにくい。スペースがあれば問題は少ない。アカマツより樹勢は強く、生長力もある。枝の途中切りはできないので、街路樹としては、枝抜き整形剪定とする。
5	コウヤマキ	×	△	×		大		都市部では衰退が早く表れる。成長が遅い。煙害、潮風に弱い。公園樹向き。
6	コニファー	△	×	△		中		強風で倒れやすい。高温多湿に弱い。強剪定は行えない。
7	コノテガシワ	×	×	×		大		樹幹幅が樹高に比べて大きくなる。大きくなると樹形が乱れやすい。
8	ニッコウヒバ	×	×	×		大		不定芽が出ない。樹形の乱れを修正しにくい。生長とともに枝枯れが発生しやすい。
9	モミ	×	×	×		大		不定芽が出にくい。スペースがあれば問題は少ない。広い根系域が必要。深根性。煙害に弱い。
10	ヒマラヤスギ	×	△	△	○	大		強風で倒木しやすい。放任すると巨木化する。樹勢強健。強剪定しても萌芽力は強い。マツカレハの被害が多い。街路樹としては枝抜き整形剪定とする。公園樹向き。
11	メタセイコイヤ	×	△	△	○	大		放任すると巨木化する。生長が早く、湿り気が多い場所で良く育つ。剪定に強い。根上りする。

(2)常緑広葉樹(並木)

No	樹種名	狭幅員 おすすめ樹種	広幅員 おすすめ樹種	街路樹 適正	防根 シート	樹冠の 大きさ	在来種	コメント
1	アラカシ	×	○	○	○	大	○	名古屋近郊では問題なし。狭い場所では暴れた樹形になる。
2	イスノキ	×	○	△		大		スペースがあれば問題は少ない。アブラムシ加害が問題。土壌を選ばず、移植は容易。煙害、潮風に強い。
3	ウスギモクセイ	○	×	○		中		ギンモクセイの変種。3-4mほどの樹高、広い場所には不適。
4	ウバメガシ	×	×	×		中	○	刈り込みに堪えるが、枝が混み過ぎ、枯枝も多くなる。暴れ枝が出やすい。煙害、潮風に強い。中木として扱うことが多い。
5	オガタマノキ	×	○	△		中		カラタネオガタマであれば狭幅員でも可能。
6	カクレミノ	×	×	×		中	○	幹は直上する。樹形が景観上、問題有り。極陰樹。
7	クスノキ	×	△	△	○	大		巨木化する。スペースがあれば問題は少ない。強風や積雪で枝折れが多い。落枝が多い。重点管理木。
8	クロガネモチ	×	○	○	○	大	○	雌木には実がなる。雌木の伸びは緩やか、管理しやすい。カイガラムシ・スス病がつきやすい。
9	ゲッケイジュ	△	×	△		中		葉に芳香がある。寒さに耐える。萌芽力がある。中木として扱うのが良い。
10	サザンカ	○	△	○		中		害虫(チャドクガ)に注意が必要。冬期剪定が理想。剪定に耐える。土壌をあまり選ばない。
11	シマトネリコ	△	×	△	○	中		病害虫が少なく、強健である。飛散した種子が植え込みで芽吹き国内外来種として自生する。余分な実生を除去すれば可。乾燥に弱く、下枝があがりやすい。(東京都環境局は緑地における除去対象としている。緑化推進に適さない種に指定した区もある。)
12	シラカシ	×	○	○		大	○	葉が明るい。狭い場所では維持管理は難しい。カシ類の中で最も寒さに強い。名古屋地方での樹勢は、アラカシに劣る。テッポウムシに注意。植栽時期は6~7月が適当。
13	シロダモ	×	×	×		大		造園木としての生産は少ない。
14	スタジイ	×	×	×		大	○	鬱蒼と茂り、暗い雰囲気となる。下枝が太く大きくなり、巨木化する。防火性あり。実は食用になる。
15	ソヨゴ	△	×	△		中	○	樹勢は土壌に左右される。せき悪地(痩せて荒れた土地)では衰退する。雌木は赤い実をつける。寒さに強い。
16	タイサンボク	×	△	△	○	大		樹形はばらついて大型化する。葉が大きく、樹形維持するのは難しい。剪定すると樹形が乱れやすい。移植はやや困難。公園樹向き。
17	タブノキ	×	△	△	○	大	○	生長早く、樹冠が広がる樹形となる。移植はやや困難。
18	ツブラジイ	×	×	×		大	○	鬱蒼と茂り、暗い雰囲気となる。巨木化する。管理上はスタジイと同じ。
19	ヒイラギ	△	×	×		中	○	葉にとげがある。マルハヒイラギは伸長量少なく剪定がしやすい。
20	ヒメユズリハ	×	○	○		大		ユズリハと樹の大きさは変わらない。スペースがあれば問題は少ない。
21	ホソバタイサンボク	×	△	△	○	大		樹形はばらついて大型化する。葉が大きく、樹形維持するのは難しい。
22	ホルトノキ	×	△	△		大		スペースがあれば問題は少ない。病虫害に強い。根は大根性。
23	マテバシイ	×	△	△		大		枝が直線的に伸長するので剪定はしやすい。幅広の樹形になる。ヒコ生えが発生しやすく、同時に幹の芯枯れをおこしやすい。固い土壌での被害が顕著。強剪定で枝枯れしやすい。名古屋地方では生育が芳しくない。
24	モチノキ	△	△	△	○	大	○	剪定に耐え、芽吹きも良い。害虫(カイガラムシなど)発生に注意が必要。すす病が発生しやすい。移植や容易。
25	モッコク	△	△	△		中		害虫(ハマキガ)発生に注意が必要。生長は遅い。耐煙性、耐潮性は強い。
26	ヤブツバキ	△	×	△		中	○	害虫(チャドクガ)に注意が必要。土壌条件が厳しい。
27	常緑ヤマボウシ	○	△	○		中		病虫害に強い、乾燥・日差しなどにも強い。剪定後の萌芽も良好。移植後1~2年は冬季落葉する。
28	ヤマモモ	×	○	○	○	大	○	明るい緑葉で剪定もしやすい。害虫(ミノムシなど)発生に注意が必要。寒さにやや弱い。生長は遅い。雌雄異株。雌木は時に大量に結実する。
29	ユズリハ	×	△	△		大		ヒメユズリハと樹の大きさは変わらない。スペースがあれば問題は少ない。萌芽力に乏しいため剪定を嫌う。

(3) 落葉広葉樹(並木)

No	樹種名	狭幅員 おすすめ樹種	広幅員 おすすめ樹種	街路樹 適正	防根 シート	樹冠の 大きさ	在来種	コメント
1	アカシデ	△	×	△		大		樹形維持はやや難しい。剪定で自然樹形を保つのは困難。公園樹向き。
2	アキニレ	×	△	△	○	大	○	生長がはやく、実生の発生が多い。やや大型化する。広いスペースであれば問題は少ない。剪定でコンパクトに仕立てることができる。
3	アメリカフウ	×	○	△	○	大		樹勢良く、維持管理に問題有り。根上がりの発生頻度が高い。
4	アベマキ	×	×	×	○	大	○	自然樹形維持は困難。
5	イタヤカエデ	×	×	×	○	大		自然樹形維持は難しい。生長は早い。
6	イヌエンジュ	×	△	△		大		やせ地に耐え、剪定後の芽吹きも良い。エンジュの方が一般的。キノコに注意。大きくなると倒木の危険がある。幹にガンシユ病がつきやすい。
7	イヌシデ	×	△	△		大		樹形維持はやや困難。剪定で自然樹形を保つのは困難。公園樹向き。
8	イロハモミジ	×	△	△		大	○	放任できるスペースが必要。剪定はなるべく避ける。
9	ウメ	×	×	×		中		伸長量多く、また長い。街路樹としての樹形をつくるのは難しい。萌芽激しく、毎年の剪定が必須。
10	エゴノキ	△	△	△		大	○	広いスペースがあれば問題は少ない。株立ち状になりやすい。花殻が大量に散る。公園樹向き。
11	エノキ	×	×	×	○	大	○	巨木化する。落ち葉などの問題が多く発生する。国蝶のオオムラサキの食草。公園樹向き。強剪定で枝枯れしやすい。
12	オオカンザクラ	×	△	△	○	大		早咲き(3月中～下旬)。大型化するので維持管理が難しい。広いスペースであれば問題は少ない。
13	オオシマザクラ	×	△	△	○	大		大型化するので維持管理が難しい。広いスペースであれば問題は少ない。枝の切り口から腐れやすい。他のサクラ類に比べ都市環境に適應する。
14	オオヤマザクラ	×	×	×	○	大		寒地のサクラ、大型化する。枝の切り口から腐れやすい。花はピンク色。
15	サクラ(オカメ)	△	△	△		中		ソメイヨシノの代替樹にできる。
16	カツラ	×	△	△		大		巨木化する。西日などの幹焼けに注意。乾燥地では生育が劣る。ヒコ生えが出やすい。
17	サクラ(関山(カンザン))	×	△	△		中		樹高は高くならないが、横に広がる。広いスペースであれば問題は少ない。
18	カンヒザクラ	×	△	△		中		樹高は高くならないが、横に広がる。広いスペースであれば問題は少ない。
19	モモ(キクモモ)	△	×	△		中		モモの一品種で菊咲き。枝幹は直上する。病害虫が多い。短命。
20	クヌギ	×	×	×	○	大		自然樹形維持は難しい。やや湿り気のある土地を好む。
21	ケヤキ	×	○	○	○	大		巨木化する。広い場所であれば適正。植栽間隔は1.2m以上としたい。落枝が多い。重点管理木。
22	コナラ	×	×	×	○	大	○	自然樹形維持は難しい。横に広がる樹形で株立ちが多い。
23	コヒガンザクラ	△	△	△		中		ソメイヨシノの代替樹にできる。小型。
24	コブシ	△	○	○		中		植え付けは土極めも可能。肥沃地では開花は少ない。幹焼けに注意。
25	サトザクラ	×	△	△		中		ソメイヨシノより小型。広いスペースがあれば問題は少ない。
26	サルスベリ	○	△	○		中		強健で管理しやすい。病害虫(スス病、ウドンコ病など)に注意が必要。定期的なひこばえ除去が必要。強剪定することで花つきがよくなる。シマサルスベリは高木用。
27	サワフタギ	△	×	△		中		上品な木だが流通が少ない。
28	サンシュユ	△	△	△		中		樹高も5mほどで管理しやすい。横に幅広い樹形となる。
29	シダレザクラ	×	△	△		大		広いスペースがあれば問題は少ない。切り口から腐れやすい。
30	シダレヤナギ	×	×	×		大		枝葉の伸びが旺盛。強剪定で樹勢が衰退する。湿り気のある土地を好む。年2回の剪定が必要。
31	シデコブシ	△	×	△		中	○	樹高5mほどで管理しやすい。星形に開花する。花は白～淡い紅色。短命。横に広がる。

No	樹種名	狭幅員 おすすめ樹種	広幅員 おすすめ樹種	街路樹 適正	防根 シート	樹冠の 大きさ	在来種	コメント
32	シモクレン	○	△	△		中		株立ちとして管理できれば問題は少ない。花は紫色。通常株立ちとなるが単幹仕立てにもできる。短幹仕立てにもできる。短命。
33	シャラノキ	△	△	△		中		別名ナツツバキ。枝が斜上し樹幹幅は狭くできる。乾燥・西日に弱い。強剪定は避ける。
34	サクラ (十月桜 (ジュウガツザクラ))	△	△	△		中		小型の花で長く楽しめる。放任に近い管理ができれば問題ない。
35	サクラ (神代曙 (ジンダイアケボノ))	×	△	△	○	大		ソメイヨシノの代替樹となる。シンクイムシの被害にあいやすい。
36	ソメイヨシノ	×	△	△	○	大		病害虫 (アメリカシロヒトリ、テングス病など) 管理など、管理次第で長寿となる。剪定を嫌う。切り口から腐りやすい。
37	タイワンフウ	×	○	△	○	大		巨樹化する、樹勢も旺盛。広いスペースであれば問題は少ない。
38	トウカエデ	×	○	△	○	大		広いスペースであれば問題は少ない。アブラムシ・カイガラムシ・ウドンコ病がつきやすい。
39	トチノキ	×	△	△	○	大		乾燥に弱い。葉が大きく、広いスペースであれば問題は少ない。風で葉がいたむ。
40	ベニバナトチノキ	×	△	△		大		管理次第で適正樹。カミキリムシの被害が多い。
41	ナンキンハゼ	×	△	△	○	大		生長は早い。剪定量はかなりあり、広い場所向き。新緑・紅葉が美しい。冬期の移植はやや困難。
42	ネムノキ	×	×	×		大	○	広げた樹冠が美しいので場所を選ぶ。柔らかな緑陰をつくるのに向いている。剪定を嫌う。生産少ない。移植は困難。
43	ノムラモミジ	△	△	△		大		害虫 (カミキリムシ) による衰退・枯死が多い。放任できるスペースがあれば適正。ヤセ地での生育は劣る。
44	ハウチワカエデ	×	△	△		大		乾燥に弱い。やや大型で都会には不向き。街園への植栽なら適正。
45	ハクウンボク	×	△	△		大		街園等広い場所向き。枝は太く、粗生する。
46	ハクモクレン	△	○	△		大		徒長枝多い、管理はしやすい。広い場所向き。植付は土極めとする。移植はやや困難。
47	ハナズオウ	△	×	△		中		樹高3mほどで管理できる場所なら適正。株立ちになりやすい。
48	ハナノキ	×	○	△		大		生長良好で管理しやすい。害虫 (カミキリ) に注意。広い場所向き。
49	ハナミズキ・赤	△	○	△		中		乾燥に弱い、せき悪地では衰退する。剪定には弱いので樹冠を広げられる広い場所が理想。生長は遅い。乾燥に弱い。
50	ハナミズキ・白	△	○	○		中		赤花よりも樹勢は強い。剪定には弱いので樹冠を広げられる広い場所が理想。生長は遅い。乾燥に弱い。
51	モモ (ハナモモ)	△	×	△		中		観賞用のモモの品種。栽培特性はキクモモとほぼ同じ。立ち性が街路樹向き。短命。
52	ハルニレ	×	×	×		大		寒冷地の木、名古屋でも見かけるが樹勢は弱い。
53	ハンカチノキ	×	×	×		中		流通が少ない。枝がばらつき纏まらない。
54	エドヒガンザクラ	×	△	△		大		巨木化する。広いスペースであれば問題は少ない。
55	ヒトツバタゴ	△	○	○	○	大	○	管理しやすい。剪定後の萌芽も見込める。樹冠を広げたい。別名ナンジャモンジャ。純白の花が樹冠を覆い雪が積もったように美しい。強剪定で枝が暴れやすい。
56	フサアカシア	×	△	△		大		マメ科で樹勢は旺盛、剪定量は多い。倒伏しやすい。
57	マロニエ	×	△	△		大		別名セイヨウトチノキ。テッポウムシ害が致命傷となる。花は美しい。暑さに弱い。
58	ムクゲ	○	△	○		中		剪定後の芽吹きが良い。樹形管理はしやすい。
59	ミズナラ	×	×	×		大		寒冷地の木、名古屋近郊では樹勢衰退気味となる。造園木としての生産は少ない。
60	ムクノキ	×	×	×		大	○	巨樹化する、樹勢も旺盛。広いスペースであれば問題は少ない。甘い実は食べられ、野鳥の食餌木になる。
61	ヤエザクラ	×	△	△		中		多くはサトザクラの中の八重咲品種の総称。樹体はソメイヨシノよりも小型、樹勢は弱い、ある程度放任するスペースが必要。枝の切り口から腐れやすい。八重咲きで開花はソメイヨシノより半月遅い。
62	ヤマザクラ	×	△	△		大	○	長寿だが大きくなる、広いスペースであれば問題は少ない。サクラ類の中では比較的立ち性。
63	ヤマハンノキ	×	×	×		大		やせ地に耐えるが、公園樹としての利用は少ない。
64	ヤマボウシ	△	○	○		中		病害虫には強い、樹勢もあり管理しやすい。すす病には注意。乾燥を嫌う。
65	ヤマモミジ	×	△	△		大		樹冠を広げるスペースがあれば適正樹。乾燥に弱い。
66	ユリノキ	×	△	△	○	大		巨木化する。根上りの発生頻度が高い。
67	カエデ (ルブルム)	×	△	△		大		生長早く巨木化する。虫害 (カミキリ等) に注意。別名アメリカハナノキ。根上りの発生頻度が高い。移植はやや困難。

(4) その他特殊樹木

No	樹種名	狭幅員 おすすめ 樹種	広幅員 おすすめ 樹種	街路樹 適正	防根 シート	樹冠の 大きさ	在来種	コメント
1	アメリカデイゴ	×	△	△		中		街園・壁面などへの利用は適正。毎年の切り詰め剪定が必要。
2	アメリカハナズオウ	△	×	△		中		強風に弱く、枝折れしやすい。
3	カナリーヤシ	×	△	△		中		ひろいスペースでの植栽は、南国風で良い。
4	トウジュロ	△	×	△		中		葉の手入れが難しい。シュロのように葉は垂れ下がらない。複数本で植栽する。
5	ノウゼンカズラ	×	×	×		—		蔓性、支柱が必要。管理はしやすい。
6	フジ	×	×	×		—		別名ノダフジ。蔓性。支柱・棚が必要。狭い場所では維持は難しい、花がいずれ咲かなくなる。

表-5 中低木樹種特性選定一覧表

(1) 中低木(常緑)

No	樹種名	花	実	葉	耐陰性	耐乾性	耐湿性	耐潮性	耐ヤセ土	耐排ガス	街路樹適正	備考
1	アオキ		○	○	○		○	○		○	△	雌雄異株。斑入り美しい。
2	アセビ	○		○	○	○				○	○	葉は有毒。
3	アベリア	○		○	○	○		○		○	○	生長が旺盛なので年2回~3回の刈り込みが必要。
4	アベリア・エドワードゴーチヤ	○		○		○			○		○	強健で乾燥に特に強い。花期が長い。移植容易。
5	イヌツゲ			○	○			○		○	○	下枝が上がりやすい。
6	イヌマキ	○		○	○	○		○			△	刈り込んで仕立物として用いられる。
7	ウバメガシ		○	○						○	○	樹勢強健。ヤセ地でもよく生育し、下枝も上がらない。
8	オオムラサキツツジ	○		○		△				○	○	寒さ、乾燥にやや弱い。弱酸性土壌を好む。
9	オトメツバキ	○		○				○		○	△	乾燥に弱い。
10	カイヅカイブキ			○		○			○	○	○	移植容易。
11	カクレミノ			○	○		○			○	△	耐陰性は特に強い。
12	カルミア	○		○		△					△	星形の花が特徴。花がらを摘まないと樹勢が弱る。
13	カンツバキ	○		○	○						△	樹高が低く草に負けやすい。こまめな除草が必要。
14	キャラボク			○					×	○	○	花壇の縁取りや、根締めのあるいは刈り込みものとして用いられる。
15	キョウチクトウ	○		○		○		○	○	○	×	枝、葉、花は有毒。学校、公共広場、工場等の環境緑化に広く用いられる。
16	キリシマツツジ	○		○						×	△	乾燥に過湿に弱い。
17	キンマサキ	○		○	○	○		○			△	刈り込みに耐える。移植容易。
18	キンメツゲ			○					△		○	ヤセ地では下枝が上がりやすい。
19	キンモクセイ	○		○		×	×				△	花の芳香が強い。
20	クサツゲ			○						○	△	樹高が低く草に負けやすい。こまめな除草が必要。
21	クチナシ	○		○	○			×		○	△	乾燥に弱い。オオスカシバの被害を受ける。コクチナシも同じ。
22	クルメツツジ	○		○						×	△	乾燥に過湿に弱い。
23	ゲツケイジュ	○		○	○			○	×		△	葉を料理に用いる。移植やや困難。スス病。
24	サザンカ	○		○	○			○		○	○	10月~12月頃咲く品種を植えたほうがよい。
25	サツキ	○		○		×	×	×			△	乾燥、過湿に弱い。植え付けは土極めとする。弱酸性土を好む。こまめな除草が必要。
26	サンゴジュ		○	○			○	○		○	×	サンゴジュハムシの食害を受けることがある。
27	シャリンバイ			○		○	○	○		○	○	乾燥に強い。生長は早い。
28	ジンチョウゲ	○		○		×				○	△	樹勢は弱く、白モンパ病がつきやすく枯れることがある。移植は困難。短命。
29	セイヨウイワナンテン			○							△	樹勢強健。
30	西洋シャクナゲ	○		○		×					△	弱酸性土を好む。植え付けはピートモス、鹿沼土を混入すると良い。
31	セイヨウバクチクノキ	○		○	○	○		○		○	△	学校、工場の環境緑化樹として用いられる。
32	セイヨウベニカナメモチ			○							○	生長は早く、樹勢強健だが根が粗いのでポット苗を使うと良い。
33	チャボヒバ			○					△		△	成木の移植はやや困難。強剪定は避ける。

No	樹種名	花	実	葉	耐陰性	耐乾性	耐湿性	耐潮性	耐ヤセ土	耐排ガス	街路樹適正	備考
34	トウネズミモチ			○		○			○	○	○	樹勢強健。
35	トベラ			○		○		○		○	△	海岸部での植栽に用いると良い。
36	ナワシログミ		○	○		○		○			△	熟実は渋みがあるが食べられる。トゲあり。
37	ナンテン		○	○	○	○		○		○	○	移植容易。剪定を嫌う。樹勢強健。
38	ニッコウヒバ			○	△				△		△	日陰地では黄色の発色が悪い。
39	ネズミモチ			○				○			○	樹勢は強いが、下枝が上がりやすい。
40	ハイビヤクシン			○		○	○	○	○	○	○	枝は地をはって長く伸びる。踏圧弱い。
41	ハクチョウゲ	○		○							○	樹勢強健。
42	ハマヒサカキ			○	○	○		○			○	病虫害に強い。花の匂いがガス臭に似るため、都市緑化樹として用いることは控える。
43	ヒイラギ	○		○				○	△		○	移植容易。縁起木。病虫害に強い。
44	ヒイラギナンテン	○	○	○	○					○	○	寄せ植えとして用いられる。
45	ヒイラギモクセイ		○	○	○						△	乾燥に弱く、道路植栽には不向き。
46	ヒサカキ			○	○	○		○			△	樹勢は強いが、生長は遅い。花の匂いがガス臭に似るため、都市緑化樹として用いることは控える。
47	ヒペリカムヒデオート	○		○							○	花期が長い。一茎に数個の花をつける。
48	ビヨウヤナギ	○		○		△					○	柔らかい葉。生長早い。
49	ピラカンサ		○	○		○		×	△	○	△	棘があるので歩道等への植栽は不向き。
50	ヒラドツツジ	○		○					△		○	花色の変化が豊富。移植容易。
51	ベニカナメ	○		○		○		○			○	新緑が濃紅色で美しい。生垣に用いられる。根頭がんしゅ病に注意。
52	ベニバナシャリンバイ	○		○							○	生長は遅い。生産少ない。
53	ボックスウッド			○							○	冬期間葉色が枯れたような茶色になる。
54	マサキ	○		○	○	○		○			○	ウドンコ病、シャクトリムシが付きやすい。
55	マメツゲ			○		○			△		○	玉物として多く使用される。生長は遅い。
56	マルバシャリンバイ			○				○			○	生長は遅い。生産少ない。
57	モッコク			○	○					○	○	生長が遅い。定期的な手入れ必要。
58	ヤエクチナシ	○	○	○							△	移植容易。
59	ヤツデ			○	○	○	○			○	△	深い切れ込みの葉に特徴あり。
60	ヤブツバキ	○		○							△	乾燥に弱い。山取り品が多い。
61	ヤマツツジ	○		○							△	落葉性のツツジで樹勢は強い。
62	リュウキュウツツジ	○		○	△	○			×	×	○	常緑性ツツジのなかでは最も寒さに強い。その他はオオムラサキツツジと同じ。(ヒラドツツジ)
63	レッドロビン	○		○		○		○			○	ベニカナメの洋種。新緑が濃紅色で美しい。生垣に用いられる。

## (2)中低木(落葉)

No	樹種名	花	実	葉	耐陰性	耐乾性	耐湿性	耐潮性	耐ヤセ土	耐排ガス	街路樹適正	備考
1	アジサイ	○		○	○	×	○	○		×	○	移植容易。群植樹として用いることが多い。
2	ウメモドキ	○		○				×			△	病虫害に強い。秋に長期間、赤い実が楽しめる。
3	エニシダ	○		○		○			○		△	樹勢強健。短命。
4	コデマリ	○		○		×			△		○	移植容易。葉は秋には黄葉。
5	シモクレン	○	○	○							△	花は紫色。通常株立ちとなるが単幹仕立てにもできる。
6	シモツケ	○		○		○		×			○	移植容易。生長は早い。刈り込みに耐える。
7	タニウツギ	○		○			○		○		△	淡い紅色の花。移植容易。
8	ドウダンツツジ	○		○		×		×		×	△	乾燥に弱く、道路植栽には不向き。
9	トサミズキ	○		○				△			△	横に広がるので植栽スペースが必要。ヒュウガミズキに比べて花も樹形も大型。
10	ニシキギ		○	○					△		○	病虫害に強い。紅葉が美しい。スズ病に注意。
11	ニワウメ	○	○								△	移植容易。自然樹形が望ましい。
12	ハギ	○		○					△		△	根が横に遠く伸びる性質。移植容易。剪定に耐える。
13	ハコネウツギ	○		○		○		○	○		△	海岸地域の緑化に適する。
14	ハナズオウ	○							○		△	葉はハート形。生長が早い。
15	ハナミズキ	○		○		×		×			○	生長は遅い。乾燥に弱い。
16	ハマナス	○		○		○		○			△	香りが強い。赤く熟した実は食べられ
17	ヒュウガミズキ	○		○							△	ハート形の葉が柔らかな雰囲気をつくる。
18	フヨウ	○		○				○			△	生長は極めて早い。
19	ボケ	○		○							△	移植容易。樹形は乱れがち。トゲあり。
20	マンサク	○		○		○					△	移植は容易。葉は秋に黄葉する。
21	ミツバツツジ	○		○							△	乾燥に弱い。腐食質の多い弱酸性土壌を好む。
22	ミヤギノハギ	○		○					△		△	移植容易。剪定に耐える。下に垂れる性質。
23	ムクゲ	○		○					○		○	樹勢強健。花殻多く散る。
24	ムラサキシキブ	○	○								△	剪定を好まない。移植容易。
25	ヤマハギ	○		○		○			○	×	○	移植容易。
26	ヤマブキ	○		○		×					△	剪定に耐える。移植容易。生長は早い。
27	ユキヤナギ	○		○						×	○	群植により春の花、夏の緑葉、秋の紅葉が美しい。
28	ライラック	○		○						×	△	花に芳香があり、洋風向きの花木。テッポウ虫被害あり。
29	レンギョウ	○		○		○	○	×		○	○	樹勢は強健で病虫害に強い。
30	レンゲツツジ	○		○		×					×	暑さに弱い。花と葉が有毒。

表-6 地被類樹種特性選定一覧表

NO	樹種名	常緑・ 落葉等	花	実	葉	耐陰 性	耐乾 性	耐湿 性	耐潮 性	耐ヤ セ土	耐排 ガス	標準植栽密度		備考
												株/m <sup>2</sup>	株/m	
1	アークトセカ	宿根草	○		○		○		○			25		6月中旬～9月頃にタンポポに似た黄色の大型の花をつける。
2	アガパンサス	常緑	○		○		○					9		7月～8月頃に咲く。花色は淡紫青、白、濃紫色がある。
3	アケビ	落葉	○	○	○		○		○				3	果実は10月頃つけ、濃紫色に熟すと果肉は食用となる。巻つる型。
4	アジュガ	常緑	○		○							25		4月～6月頃咲く。青紫色の花、赤紫色の新葉が美しい。
5	アベリア・エドワードゴーチヤ	常緑	○		○		○			○		9		4月～10月頃まで咲く。薄赤色の花。
6	アメリカツルマサキ	常緑		○	○		○		○		○		3	葉に光沢のあるものや、白や黄色の斑入りのものがある。
7	イタビカズラ	常緑			○		○		○				3	気根による吸着で登はんする。耐寒性は弱い。吸着型。
8	エビネ	常緑	○									25		4月に咲く。日本の代表的な自生のラン。
9	オオイトビ	常緑			○		○		○				3	茎の至るところから吸着根を出し、下垂・登はんする。吸着型。
10	オオバジャノヒゲ	常緑	○	○	○		○					16		6月中旬～7月頃に花をつける。
11	オカメザサ	常緑			○	○	○					16		年1回の刈り込みが必要。予定外の場所へも地下茎が伸びる。
12	オモト	常緑		○	○							16		冬の赤い実は美しい。
13	オロシマチク	常緑			○	×						16		葉長3cm～5cm。土壌はマサ土、砂質が良い。
14	ガザニア類	常緑	○		○		○					25		春から夏にかけて咲く。花色は赤、白、黄、橙等がある。
15	カロライナジャスミン	常緑	○		○		○		△				3	3月～6月頃濃黄色の花が咲く。生長極めて早い。巻つる型。
16	キヅタ	常緑			○		○						3	耐寒性がある。吸着型。
17	キチジョウソウ	常緑	○		○							16		半日陰地が良い。
18	ギボウシ	宿根草			○			○	×			16		6月～8月頃、淡紫色の花が咲く。
19	クサソテツ	落葉			○		△					16		春の新葉が美しい。
20	クサツゲ	常緑			○							25		根締め用に用いられる。
21	クマザサ	常緑			○	○						16		冬になると葉の縁が白く、くまどる。
22	クレマチス	落葉	○				○						3	6月頃、白、ピンク、紫の花が咲く。巻つる型。
23	コウライシバ	落葉			○		○	×	○					日陰では育たない。踏圧に比較的耐える。
24	コグマザサ	常緑			○	○						16		矮性。葉の大きさはクマザサの1/2以下。
25	コトネアスター	常緑	○	○	○		○					16		耐寒性がある。
26	サルコッカ	常緑	○	○	○	○						25		4月頃、芳香性のある花が咲く。
27	シバザクラ	常緑	○		○							25		4月～5月頃、花が咲く。耐寒性がある。
28	シャガ	常緑	○		○	○						25		4月～6月頃咲く。白紫色の花が美しい。
29	シャスターデージー	常緑	○		○	○						25		5月～6月頃咲く。白色の花が美しい。耐寒性がある。
30	ジャノヒゲ	常緑			○	○		○	○			44		密生すると雑草が侵入しにくい。踏圧に弱い。

NO	樹種名	常緑・ 落葉等	花	実	葉	耐陰 性	耐乾 性	耐湿 性	耐潮 性	耐ヤ セ土	耐排 ガス	標準植栽密度		備考
												株/m <sup>2</sup>	株/m	
31	宿根バーベナ	宿根草	○				○					25		5月～10月頃咲く。花後に刈り込んで分岐させると花が長く楽しめる。
32	宿根フロックス	宿根草	○		○							25		7月～9月頃咲く。
33	シラン	常緑	○		○		○					25		4月～5月頃、ピンクの花が咲く。
34	スイカズラ	半落葉	○		○		○						3	5月～6月頃咲く。花は香りがよく、白色から後に黄変する。巻つき型。
35	スイセン	常緑	○		○							25		12月～4月頃咲く。
36	セイヨウイワナンテン	常緑	○		○	○	×	○	×			16		枝は垂れる性質がある。
37	セダム類	常緑	○		○		○					44		春から夏にかけて咲く。非常に低い地被類。
38	ゼフィランサス	常緑	○		○							25		4月～5月の春咲きと、6月～9月に咲く夏咲きがある。
39	ダイアンサス類	常緑	○		○							25		5月～6月頃咲く。ピンクの花。
40	タマズダレ	常緑	○		○		○					25		8月～10月頃咲く。
41	タマリユウ	常緑			○	○		○	○			44		日陰となる場所で芝生の代わりとなる。踏圧に弱い。
42	チゴザサ	常緑			○	○		○				25		葉にシマ状の白斑があり美しい
43	ツキヌキニンドウ	落葉	○		○						○		3	5月～6月頃咲く。地被としては、葉が密生しない。
44	ツルマサキ	常緑			○				○				3	茎から気根を出して吸着する。葉は光沢がある。吸着型。
45	ツワブキ	常緑	○		○	○			○			16		10月～12月頃咲く。花色は黄色。
46	ドイツズラン	宿根草	○		○							25		5月頃咲く。花色は白。
47	トクサ	常緑			○							25		寒乾風に強い。
48	トケイソウ	半落葉	○		○		○						3	6月～9月に咲く。巻つる型。
49	ナツツタ	落葉			○				△				3	秋の紅葉が美しい。吸着型。
50	ナツユキカズラ	落葉	○										3	7月～10月頃に咲く。白い小花が枝先を覆うようにたくさんつく。巻つる型
51	ニシキテイカ	常緑			○		○		○			16		登はん性は乏しい。春に直立枝を生じ後に地表をはう。下垂型。
52	ノシバ	落葉			○		○	×	○					日陰では育たない。踏圧に比較的耐える。
53	ハイビヤクシン	常緑			○		○	×	○			9		枝は地をはって長く伸びる。
54	ハナニラ	宿根草	○				○					16		1月～3月に咲く。淡い青紫の花。極めて丈夫であるが踏圧には弱い。
55	ヒガンバナ	冬緑性	○				○					16		9月頃に咲く。花色は赤、白、黄などあり。陽地を好む。
56	ビグノニア	常緑	○		○		○						3	6月～7月に咲く。花色は赤橙。巻つる・吸着型。
57	ビナンカズラ	常緑	○	○	○				○				3	7月下旬～8月にかけて咲く。秋には赤い実がなる。巻つる型
58	ヒペリカムカリシナム	常緑	○		○	○	△					16		5月頃咲く。花色は黄。一茎一花。
59	ヒペリカムヒデコート	常緑	○		○	○	△					16		5月～7月頃咲く。花色は黄。房咲き。
60	ヒマラヤユキノシタ	常緑	○		○							16		3月～6月頃咲く。ピンクの花。

NO	樹種名	常緑・ 落葉等	花	実	葉	耐陰 性	耐乾 性	耐湿 性	耐潮 性	耐ヤ セ土	耐排 ガス	標準植栽密度		備考
												株/m <sup>2</sup>	株/m	
61	ヒメクちなシ	常緑	○		○		○		○			16		6月頃咲く。白色の花。根締めなどに用いられる。
62	ヒメシャガ	宿根草	○		○			○				25		6月～7月頃咲く。花色は紫、淡紫など。
63	ビンカミノール	常緑			○		○					25		4月～6月頃咲く。花色は青紫。蔓を伸ばし、節から根を出して広がる。
64	フィリフェラオーレア	常緑			○		○					16		陽地を好み日陰地では黄金色の出が悪い。
65	フィリヤブラン	常緑	○		○	○	○	○				25		8月～9月頃咲く。花色は淡紫色。根締めとして用いられる。
66	フッキソウ	常緑			○	○	△					25		背が低く、明るい緑の葉が密につく。
67	ブッドレア	落葉	○									9		6月～10月に咲く。背が高くなる。
68	ヘデラ・カナリエンシス	常緑			○	○			○	○	○	16		大葉で光沢がある。
69	ヘデラ・グレーシャー	常緑			○	○			○	○	○	25		白斑の葉。耐寒性に優れる。
70	ヘデラ・ゴールドハート	常緑			○	○						25		黄中斑の葉が鮮やか。
71	ヘデラ・コルシカ	常緑			○	○			○	○	○	25		大葉でやや丸い。寒冷地にも耐える。
72	ヘデラ・バリエガータ	常緑			○	○						16		黄色の外斑品種で美しい。
73	ヘデラ・ピッツバーグ	常緑			○	○			○	○	○	25		青葉種で分枝が強く密生する。高温多湿に弱い。
74	ヘデラ・ヘリックス	常緑			○	○			○	○	○	25		葉は青葉。平面、法面、下垂などにも用いられる。
75	ヘメロカリス	宿根草	○									9		花の少ない6月～9月に赤、黄、橙、桃、白色の花が咲く。
76	ポテンチラ	宿根草	○		○							25		5月～9月に咲く。黄色の花をつける。高温多湿に弱い。
77	ホトギス	宿根草	○		○		×	○			×	16		9月～10月頃に咲く。紫色の斑点が入った花が魅力。
78	マツバギク	常緑	○		○		○	×	○	○		16		5月～6月頃咲く。濃いピンク色の花。密生し雑草の侵入を防ぐ。
79	ムベ	常緑	○	○	○	○	△	○	○			25	3	生長が旺盛なので広い面積の被覆に向く。巻つる型。
80	メキシコマンネングサ	常緑	○		○		○			○		25		5月～6月頃咲く。草丈が低い鮮やかな黄緑色の葉。
81	モッコウバラ	半落葉	○		○								3	4月～6月頃咲く。花色は白色、黄色がある。枝にトゲがない。巻つる型。
82	ヤブコウジ	常緑		○	○				○			25		実は球形で赤く熟す。
83	ヤブラン	常緑	○	○	○	○	○	○	○			25		8月～9月頃咲く。花色は淡紫色。根締めとして用いられる。
84	ユリオプスデージー	常緑	○		○		○					16		11月～5月に咲く。黄色い花。葉は灰緑色。
85	ラミューム	常緑	○		○		○					16		4月～5月頃咲く。地をはい、節ごとに発根し増殖する。
86	ローズマリー類	常緑	○		○		○					16		4月～6月頃咲く。花色は紫。立性、這性がある。
87	ロニセラニチダ	常緑			○	○	○					16		春の新緑が美しい。小枝が横に出て繁茂する。

表一七 高架下緑地帯植栽樹種例

乾燥に強く、日照時間が少なくても生育できる樹種を中心とする。

日照時間	主な樹種	
1時間 ～ 2時間半	低木 地被	ヒサカキ、アオキ、ヒイラギナンテン、ヤツデ リュウノヒゲ、ツワブキ、ヘデラ、フィリヤブラン
2時間半 ～ 4時間	低木 地被	アセビ、シンガシラ、シャリンバイ、トベラ、ナワシログミ、ハマヒサカキ、マサキ、ガクアジサイ、クチナシ、ジンチョウゲ クマザサ、コグマザサ、オカメザサ、テイカカズラ、ユキノシタ

 : 花の目立つ植物

表一八 壁面緑化植栽樹種例

道路沿いの石垣、擁壁、橋脚等をつる性植物等で緑化することにより景観の向上を図る。

吸着型 巻蔓型 (ネット格子などの補助資材を取り付ける) 下垂型	ナツツタ、ヘデラ、ノウゼンカズラ、オオイトビカズラ アケビ、カロライナジャズミン、スイカズラ、ツキヌキニンドウ、 テイカカズラ、ノウゼンカズラ、フジ、ヘデラ、ムベ ヘデラ、テイカカズラ、ピンカマジョール
伸長の大きいもの	ナツツタ、スイカズラ、フジ、ノウゼンカズラ

- (参考) ①吸着型・・・芽から付着根を伸ばして這い上がっていく種類  
 ②巻蔓型・・・巻きひげや巻蔓を伸ばして登っていく種類  
 ③下垂型・・・もっぱら垂れ下がる種類

表－9 つる性植物特性表

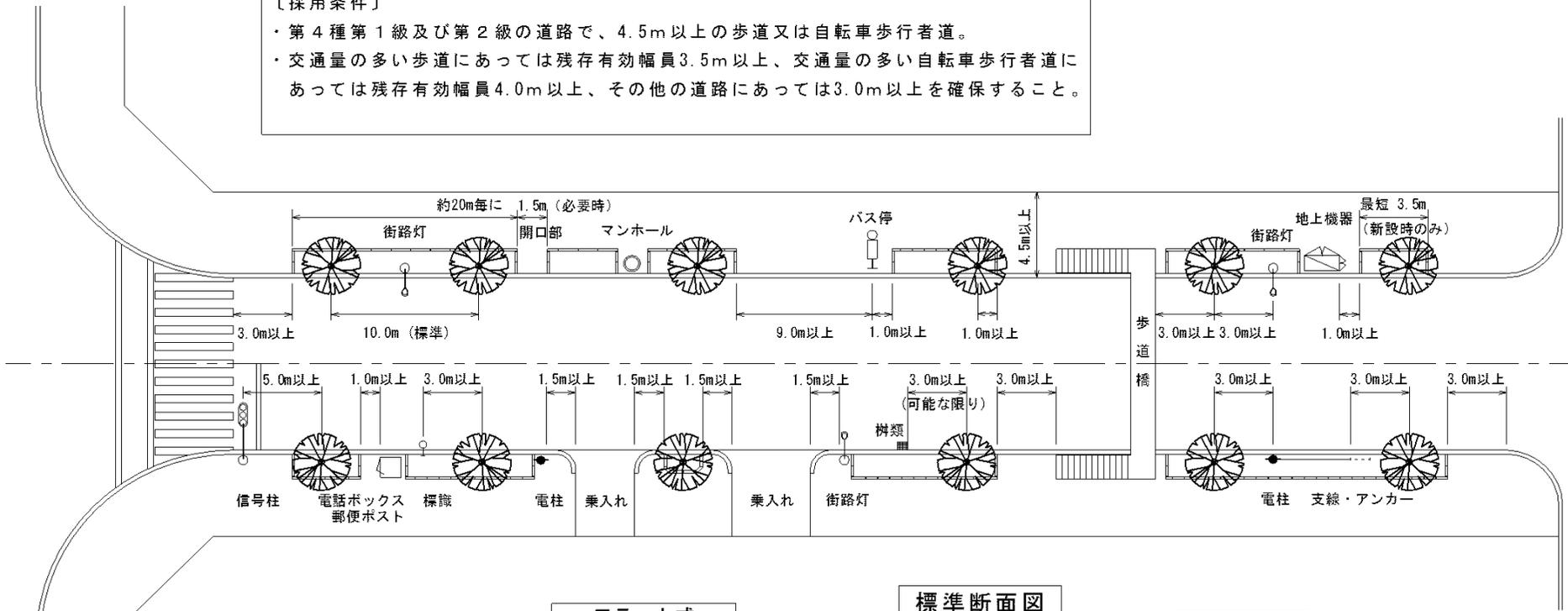
つる性植物については、下表の特性を考慮して使用場所と目的にあったものを採用する。

種類	常緑・落葉	高さ限度	花(遮蔽性)	葉	年間伸長	支持形式	支持力	被覆規模
アケビ	落葉	8～10m程度	紫色・垂れて咲く、観賞に耐える(疎)	五つに分かれて手をひろげたような形深い緑	2～3m	巻きつき	大	中
イタビカズラ	常緑	4～5m	(密生)	大きさ1～2cmくらいの小さなハート形	2m	吸盤	大	中
西洋キツタ	常緑	3m程度	(密生)	いろいろな種類があり、3～5つに切り込みのある葉で大きさ2～20cmくらいまで	1～3m	気根	小	大・中
フユツタ	常緑	30m	(密生)	深い緑色で光沢があり老成した枝のものは卵型、一般には3～5の切り込みがある	1～2m	気根	大	大規模可
サネカズラ (ビネンカズラ)	常緑	1～2m	実紅色で美しい(密生)	楕円形で長さ5～10cm、幅3～5cm柔らかく一面光沢あり。	1～2m	巻きつき	大	中
スイカズラ	常緑	10m	(密生)	楕円形の葉で濃い緑	6～7m	巻きつき(右巻)	大	小
ツルバラ	落葉	10m	花はいろいろあり(疎)		1～2m	寄りかかり人為的に支持	小	中
ツクヌキニンドウ	落葉	5～7m	美しい赤い花(疎)	茎が葉をつき抜けている	1m	巻きつき	大	小
ツルウメモドキ	落葉	12m	実が美しい(疎)	淡い緑色	6m	巻きつき	大	中
テイカカズラ	常緑	3～6m	(疎)	濃い緑色	1m	気根	小	中
ノウゼンカズラ	落葉	7m	美しい大きい花(疎)	複葉の葉	2～3m	気根	大	中
ムベ	常緑	4～5m	(疎)	アケビに似る、ただし厚い葉	1～2m	巻きひげ	大	中規模可
ナツツタ	落葉	20m	(密生)	趣き深い形の葉、秋紅葉する	3～5m	吸盤のある巻きひげ	大	大
フジ (ノダフジ)	落葉	12m	穂状に垂れ下がった花(密生)	複葉の葉	3～5m	巻きつき(右巻)	大	大規模可

図-1

# 植樹帯標準設置図

- 〔採用条件〕
- ・第4種第1級及び第2級の道路で、4.5m以上の歩道又は自転車歩行者道。
  - ・交通量の多い歩道にあつては残存有効幅員3.5m以上、交通量の多い自転車歩行者道にあつては残存有効幅員4.0m以上、その他の道路にあつては3.0m以上を確保すること。



フラット式  
セミフラット式

標準断面図

マウント式

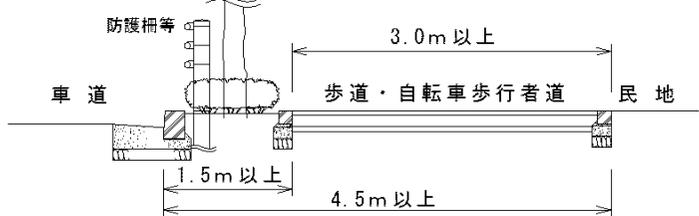
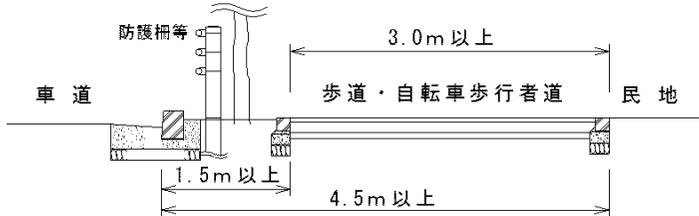


図-2

植樹帯標準設置図（片側2車線以上の道路を通学路が横断している場合）

- 〔採用条件〕
- ・第4種第1級及び第2級の道路で、4.5m以上の歩道又は自転車歩行者道。
  - ・交通量の多い歩道にあつては残存有効幅員3.5m以上、交通量の多い自転車歩行者道にあつては残存有効幅員4.0m以上、その他の道路にあつては3.0m以上を確保すること。

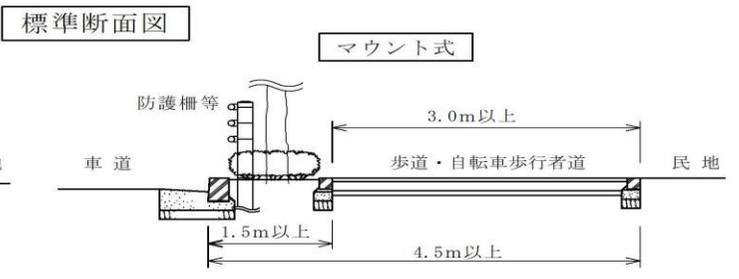
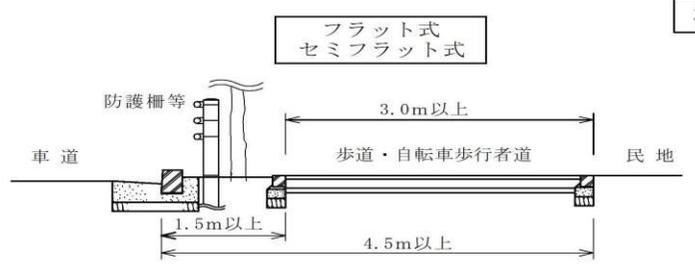
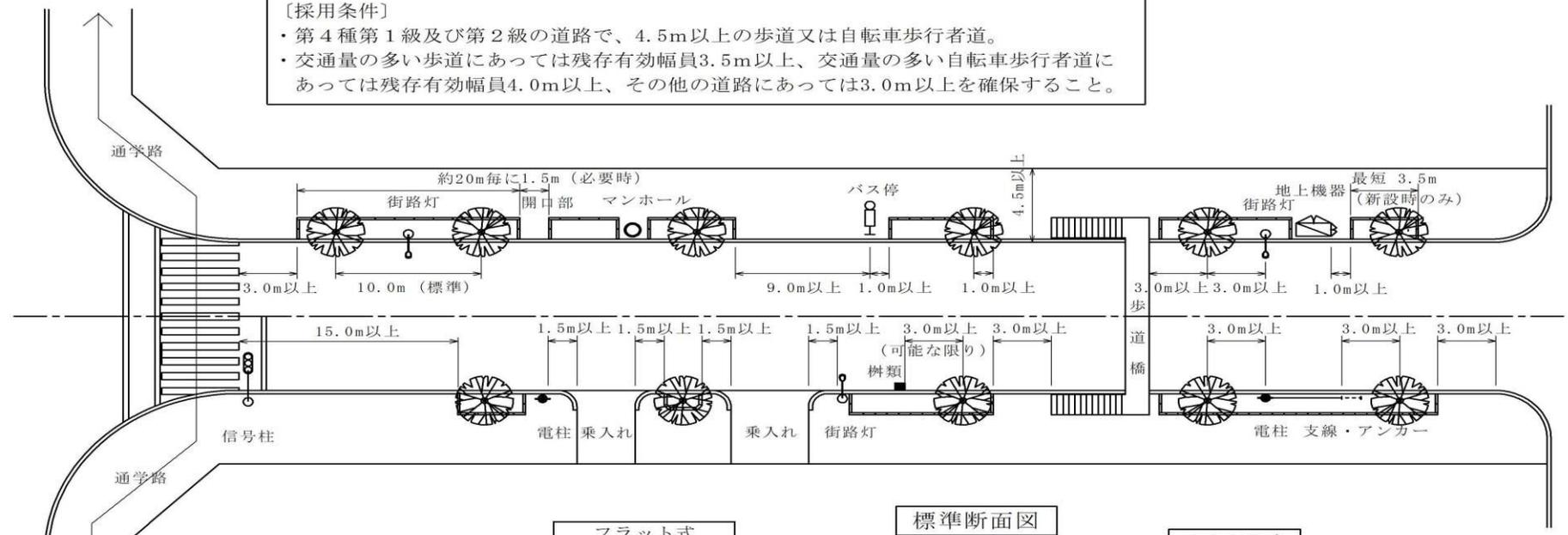
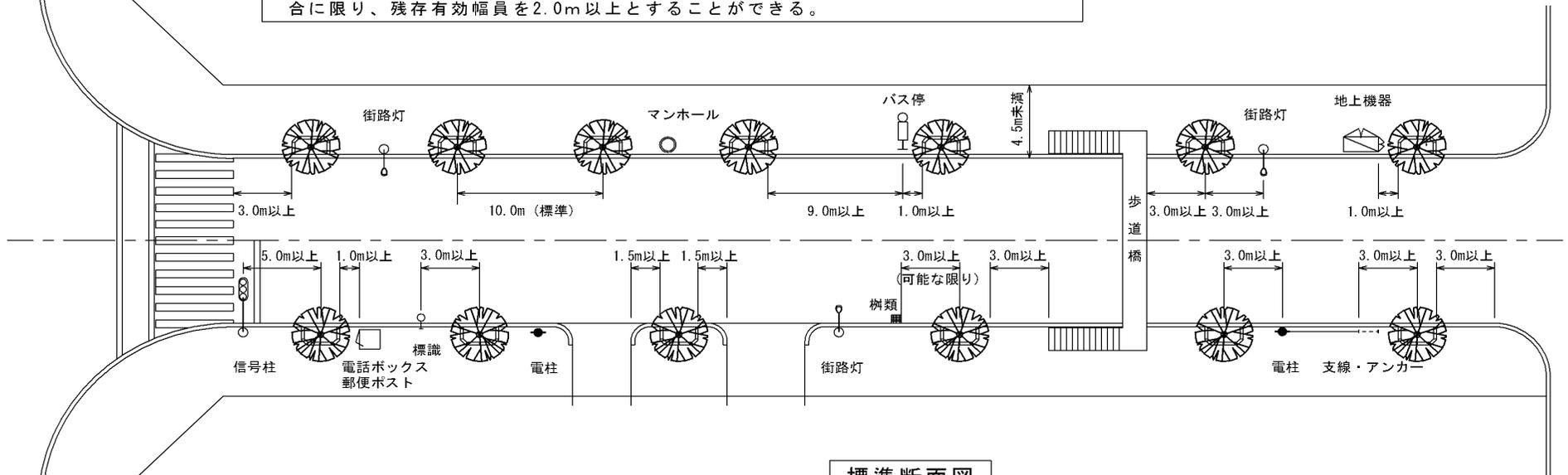


図-3

# 植ます標準設置図

〔採用条件〕

- ・第4種第1級及び第2級の道路で、4.5m未満の歩道（残存有効幅員2.5m以上確保）及び自転車歩行者道（残存有効幅員3.0m以上確保）。
- ・歩道において、交通状況、沿道の土地利用等、特段の事由により必要と認められる場合に限り、残存有効幅員を2.0m以上とすることができる。



## 標準断面図

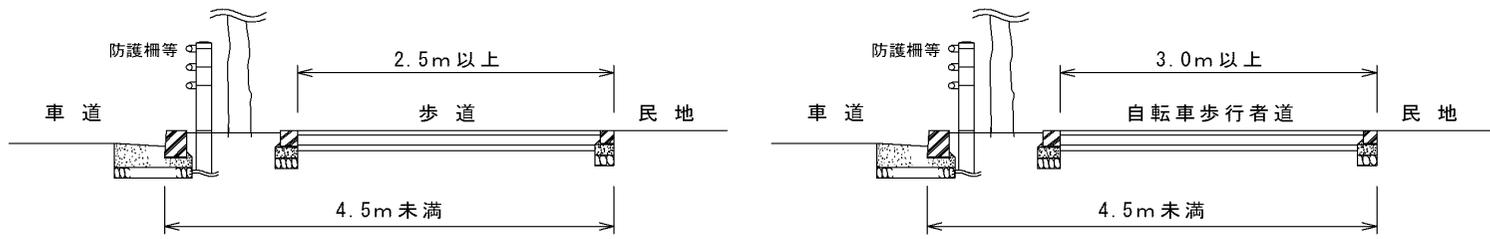


図-4

植ます標準設置図（片側2車線以上の道路を通学路が横断している場合）

〔採用条件〕

- ・第4種第1級及び第2級の道路で、4.5m未満の歩道（残存有効幅員2.0m以上確保）及び自転車歩行者道（残存有効幅員3.0m以上確保）。

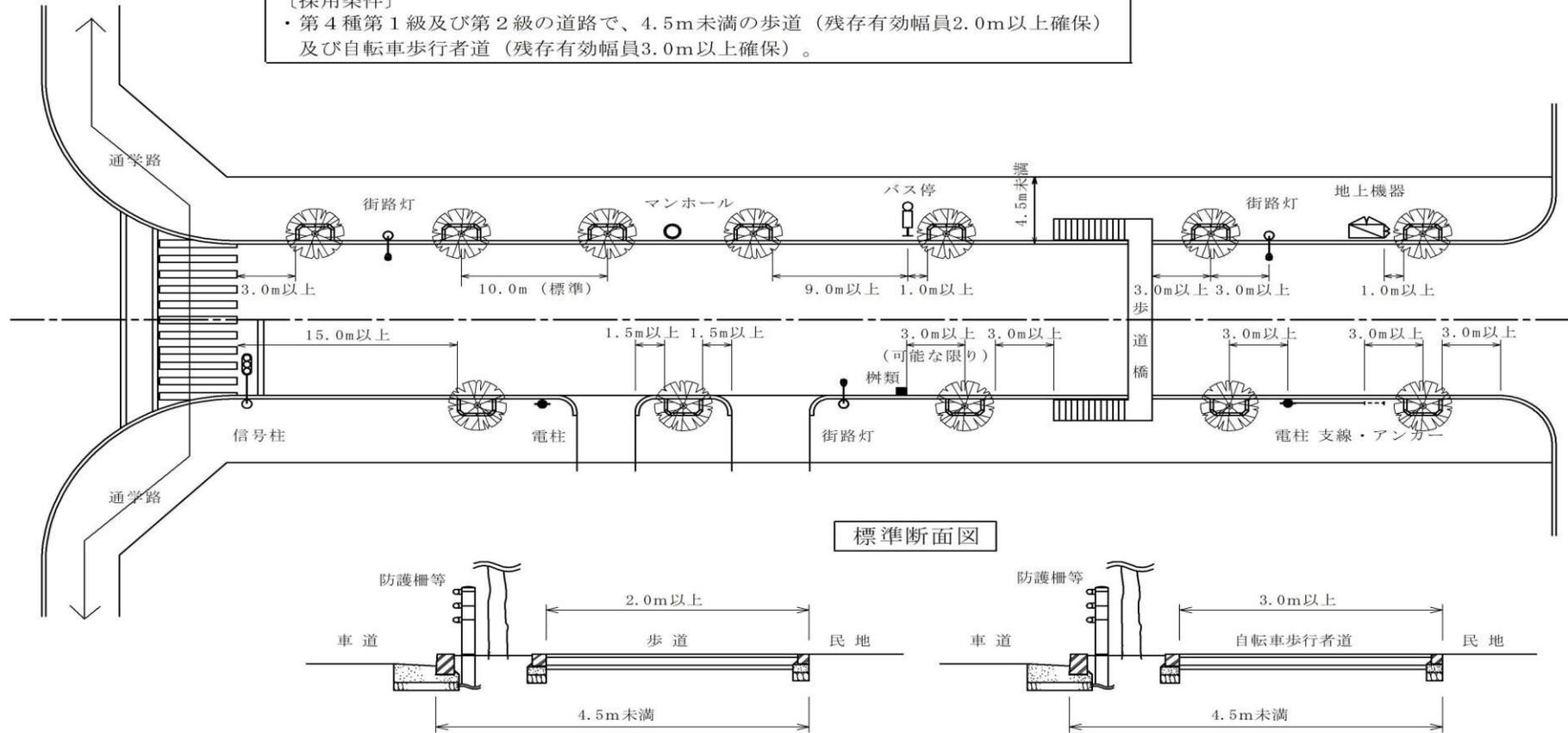
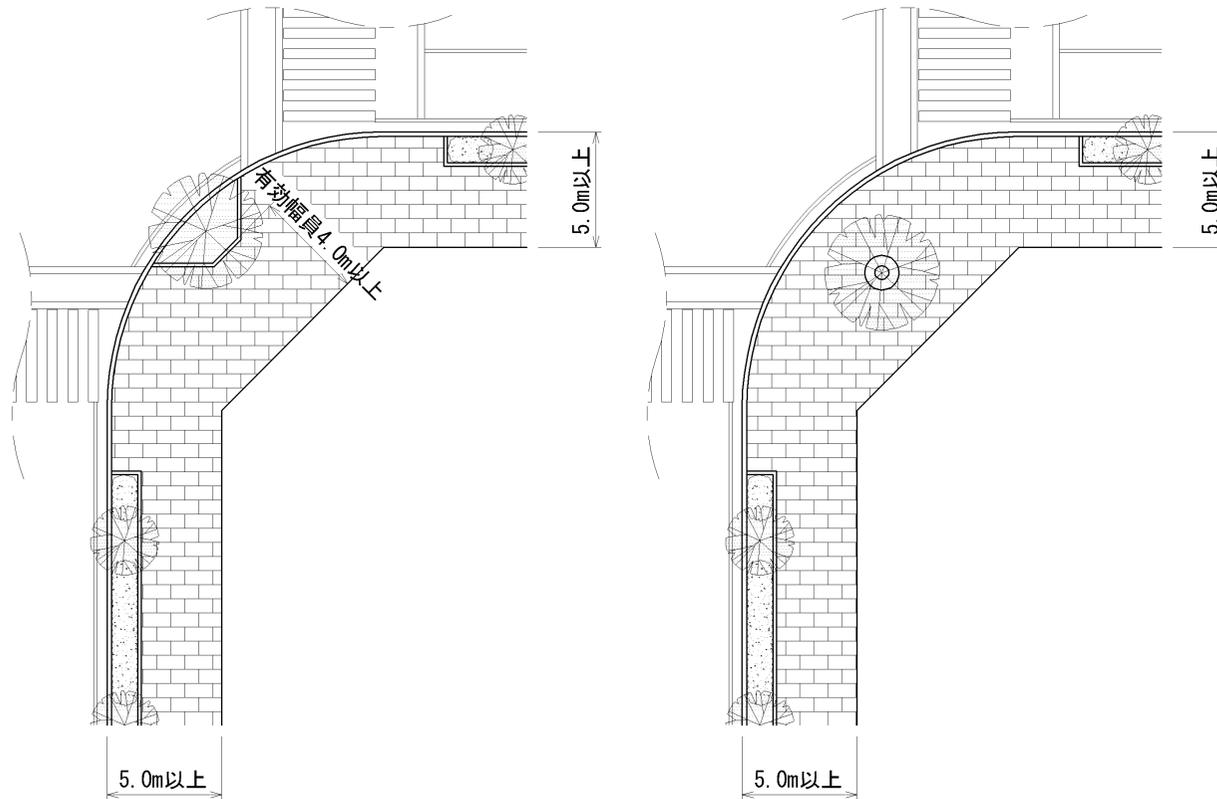


図-5

広幅員交差点植栽標準図

車道側に設置する場合

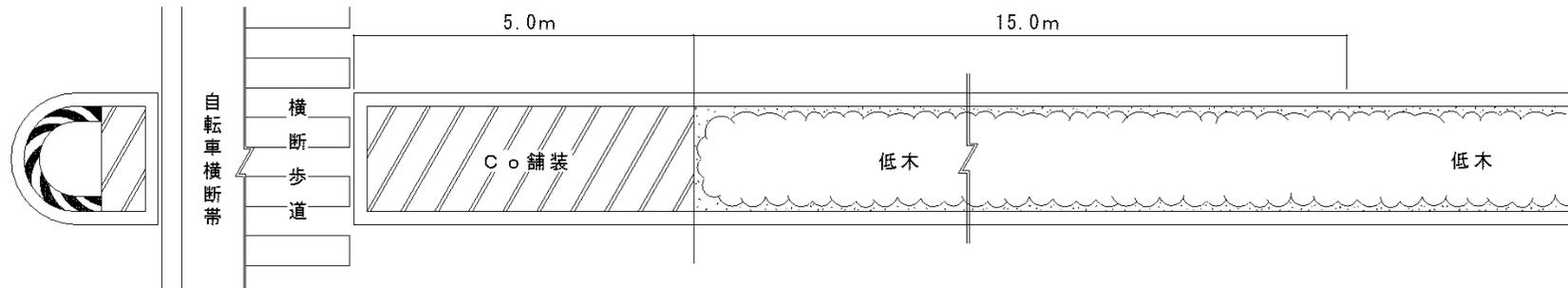
歩道中央に設置する場合



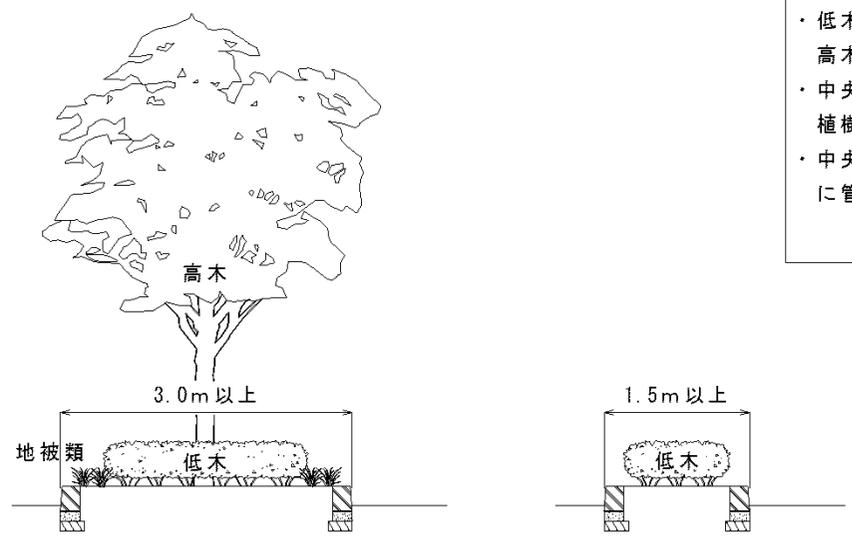
注) 設置位置については交通管理者(所轄警察署等)と協議すること。

図-6

# 中央分離帯標準設置図



標準断面図

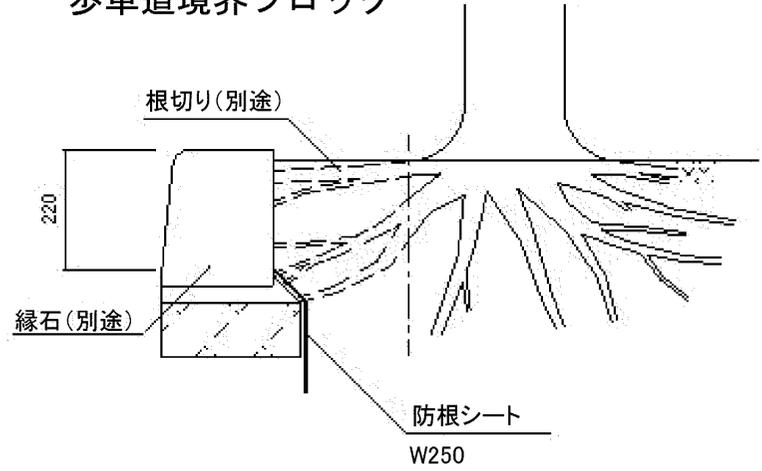


- 〔採用条件〕
- ・幅員1.5m以上の中央分離帯。
  - ・低木、地被類による植栽を標準とし、幅員3m以上の中央分離帯には高木を併用できる。
  - ・中央分離帯の先端及び横断歩道、自転車横断帯の端部から5m以内は植樹帯を設けない。(C〇舗装等により防草対策を講じること。)
  - ・中央分離帯先端部から20m以内に植栽する低木等は、高さ0.5m以下に管理できる樹種とする。

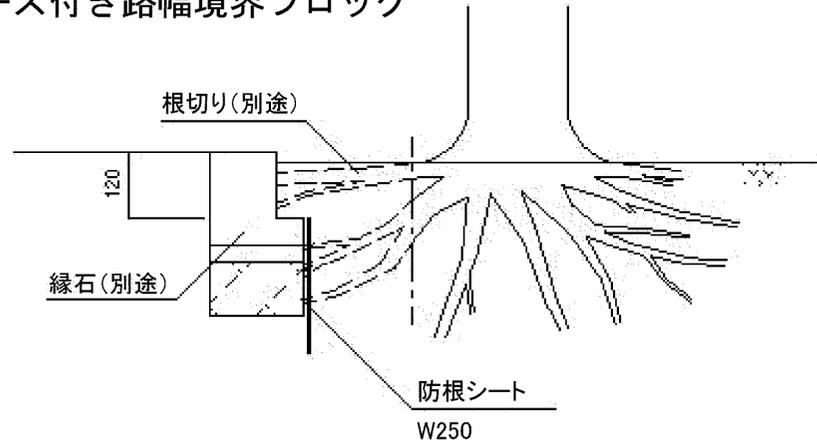
図-7

# 防根シート布設工A 構造図

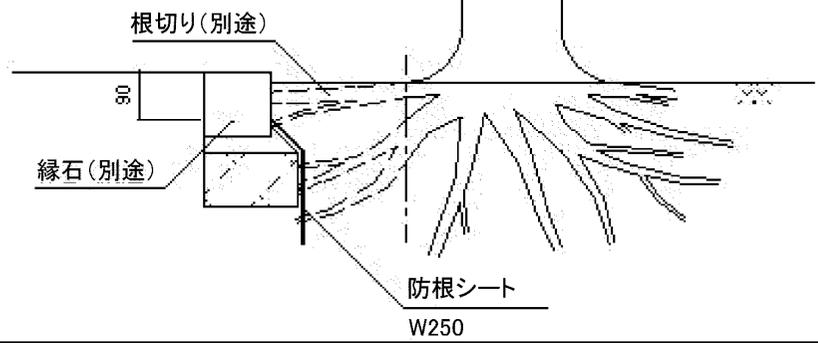
### 歩車道境界ブロック



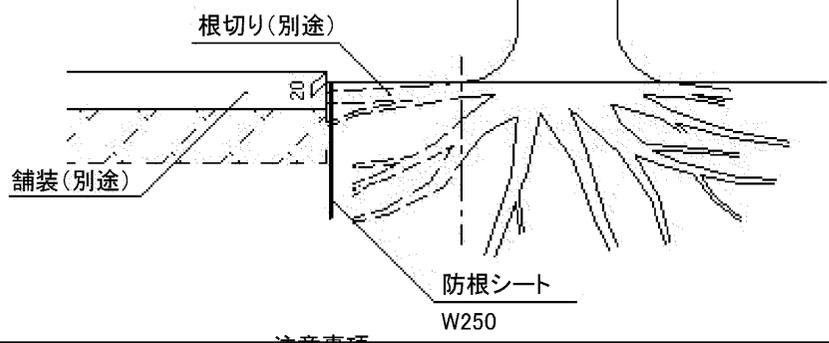
### ベース付き路幅境界ブロック



### 路幅境界ブロック 根囲ブロック



### コンクリート舗装



## 道路空間緑化基準

編集発行 名古屋市緑政土木局

緑地部緑地維持課

電話 052-972-2494

FAX 052-972-4142

令和7年4月1日発行